

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200912		
法人名	社会福祉法人 平成病院記念会		
事業所名	グループホーム本郷		
所在地	山口県岩国市本郷町本郷2086		
自己評価作成日	平成27年12月19日	評価結果市町受理日	平成28年6月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは自然と歴史情緒あふれる町、本郷町にあります。ご利用者には、ストレス少なく自然や地域の中で少しでも穏やかに生活していただけるような対応を心がけております。地域の行事は活発で、花火大会や地域のお祭り等、積極的に参加し、地域の方々と交流が図れるようなケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、できるだけ多くの地域行事に利用者が参加できるように支援しておられ、夜間に催される夜市には、職員の勤務体制を変更されて参加しておられ、花火大会の時間になると事業所に戻って鑑賞できるように、利用者の楽しみになるように支援されています。地元の保育所の園児や小中学校との交流の他、今年度は高校生と一緒に茶摘みを体験されるなど、新たなことにも取り組んでおられます。食事は併設の施設からの配色を利用されていますが、副菜の一品や汁物などを事業所で調理しておられる他、月1回は食事づくり(お好み菓、そうめん流し、豚汁、鍋料理、ちらし寿司)やおやつづくり(くりぜんざい、チョコレートケーキ、たこ焼き、柏餅)の行事を計画されています。野菜を切ったり、米をとぐなどの準備から後片付けまでの流れを、利用者と職員が一緒におられ、自分たちでつくって食べることの、楽しみを支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は掲げているが、共有し実践につながっているとはいいいがたい。実践に向けて取り組んでいる途中である。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者は、利用者に対して優しさと思いやりを持って接するよう職員に説明し、職員は申し送り時に確認して、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加して、地域の方々との交流を積極的に図っている。	利用者は、地域の祭り(夜市や花火大会、ふるさとまつり、盆踊り、恵比寿講祭り)や近隣の老人施設の運動会などで地域の人と交流している。保育所や小中学校の運動会で競技に参加したり、高校生と一緒に茶摘みに参加して、交流している。保育園児の来訪があり、遊戯を披露したり、併設施設に来訪する中学生(折り紙、レクリエーション)とのふれあいや小中学校ダンスチームの観劇などで交流している。地域の郵便局に出かけたり、商店への買い物時に、地元の人と会話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時には、認知症についての支援方法等を、参加者の方々へ説明をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価に関して、各々職員にも評価をしてもらい、後日フィードバックして具体的な改善策等を職場会議にて検討している。	自己評価をするための書類を常勤職員に配布して記入してもらい、月1回の職員会議で全職員が話し合い、管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて目標達成計画を作成し、鍵をかけない工夫、家族等の意見の反映(満足度調査の実施)、外部研修への参加、地域との関わりなどについて、改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、サービス提供状況等を報告している。また、意見を参考にしてサービス向上に活かしている。	会議は2か月毎に開催し、利用者数や利用者の状況、事業所の活動内容、行事予定や行事報告、消防訓練について、事故事例の報告、入居申し込み状況などについて説明し、話し合っている。	・会議を活かす取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、岩国市担当職員との連携を図っている。担当者には運営推進会議構成員に入ってもらっている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話や直接出向いて相談をして助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に相談をして助言を得たり、本郷地区を考える会に管理者が出席して情報交換をしているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっており、いつでも外出する事は出来ないようになっているが、ご本人の希望により、職員が付き添って外出する事は実施している。	内部研修で学び、職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠について、週1回からでも開錠する時間を設けるための話し合いを続けている。外に出たい利用者には職員と一緒に外出したり、ドライブをしているなど、工夫している。スピーチロックについては、気になる場合には管理者が指導している。	・鍵をかけないケアの検討の継続
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内勉強会にて、虐待防止について学ぶ機会を設けている。また、日々のケアの中で、注意しながら虐待の防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、ご利用者の中にも成年後見制度を利用されておられる方がいらっしゃる為、ある程度の理解はあるが、学ぶ機会は持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等は十分に説明をしてご理解いただき、書面にてサインを頂いている。改定の際は十分説明し納得を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット別に相談窓口を定め、苦情の受付をしている。また、苦情対応者の名前を掲示している。	相談、苦情の受付体制や処理の手続きを定め、家族に周知している。家族の面会時やケアプラン説明時、運営推進会議時、電話等で家族から意見や要望などを聞いている。意見箱を設置している。職員の名前が分からないという家族からの意見があり、名札着用に加えて、事業所内に顔写真と名前のリストを作成し掲示している他、玄関のインターホンへの対応についての苦情があり、センサー設置場所を変えているなど、家族からの意見を活かしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、第2火曜日には職場会議を設け、職員の意見や提案を聞き、実際の業務や処遇に反映させている。	月1回の職員会議で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で個別に管理者が職員からの意見を聞いている。職員の配置換えや業務内容変更、冷房機器の設置についての職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間については、不必要な残業が無い様に注意してその都度業務改善を行っている。また、業務がマンネリ化しないような、業務配置も工夫して采配している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員ではないが、法人内、もしくは法人外の研修を斡旋し、参加している。また、事業所内での勉強会も定期的に行っており、各職員の資質向上に努めている。	外部研修は、必要な研修に応じて職員に伝え、勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は、月1回の勉強会で復命講習をしたり、日常業務の中で伝達をしている。法人研修は、新人や役職者向け研修があり、希望者が参加している。内部研修は、月1回勉強会として、感染症胃腸炎、身体拘束防止など、法人からのテーマや、その時、事業所で必要になったテーマ、バイタルについて、グループホームとは、介護施設における火災及び防災について、薬剤知識、実践スキンケア、食事介助等の内容で実施している。	・計画的な研修の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年では実施できていないが、平成28年1月に、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会の研修に参加し多事業所職員との交流を図る予定である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や訴えをしっかりと傾聴して関係作りに努め、ケアプランにも反映させている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いや訴えもしっかりと傾聴し、関係作りに努め、ケアプランにも反映させている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応のなかで、優先順位もしっかりと考慮して、ケアの方針を決めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するのではなく、布団干しや調理の一部、台拭きなどを一緒に行うなど、暮らしを共にするという関係を築く事が出来ている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも、病院受診や備品の購入等の役割を持って頂き、共に支援する関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚等、馴染みの人との面会等を通じて関係が保てるように支援している。必要に応じて電話で会話をさせていただくこともある。	親戚の人や友人、近所の人、元職場の同僚の来訪がある他、年賀状や暑中見舞い、手紙を出したり、電話の取次ぎなどの支援をしている。ドライブで自宅や生家の周辺に出かけたり、家族の協力を得ての買い物や法事や葬儀への参加、盆や正月時の外泊など、馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でのレクレーション等を通じて、利用者が孤立しないよう配慮し、関わり合いを支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に暮らしの希望等を伺ってケアプランに反映させている。ご自分の想いの訴えが困難な方には、計画作成者と職員で検討している。	センター方式のシートやアセスメントシートを活用している他、日ごろの関わりの中で得た利用者の情報を看護介護記録として電子カルテに記録して、思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合には、家族からの情報を基に職員間で話し合い、本人本位に検討している。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や既往歴、入居にいたるまでの経緯等は事前、もしくは入居後も継続して本人や、家人等に伺い、本人の理解に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の過ごし方や御様子は、個別に記録を残し各職員が把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにて、ケアの方針や方法について話し合い、定期的にケアプランの更新を行っている。家族等にも意向を伺い、反映させている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に、ケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者や家族の要望、主治医、薬剤師、職員等の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し見直している他、利用者の状態の変化に応じて見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテにて日々の様子や支援内容を個別に記録し、職員で共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の要望があれば、個別に買い物支援等を行ったり、ご家族が困っておられれば、介護保険更新手続きを代行している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の警察署へご利用者の顔写真をお渡しして、緊急時の捜索体制をとっている。その他、歯科診療所や市役所、商店等も必要に応じて活用している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望に沿った主治医を選んでいただいている。特別に希望がなければ、山口平成病院が主治医となり、月に2回の訪問診療等を適切に受けておられる。	協力医療機関による受診の他、利用者や家族の希望する元もとのかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関からは、月に2回の訪問診療があり、他科については、協力医療機関内の泌尿器科、皮膚科以外は、家族の協力を得て事業所が受診の支援をしている。受診結果は、家族に電話で報告をしている。緊急時は協力医療機関で対応し、夜間の緊急時は隣接の病院にも協力を得ているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的なニーズが出てきた場合は、併設施設の看護師に相談し、アドバイスや処置等が受けられる体制となっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、介護、看護情報提供したり、病院でのカンファレンスに参加している。スムーズな受け入れの為の情報交換を医療連携室と行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は行っていないが、重度化される前には、事業所での対応範囲をお話し、家人と介護方針を共有している。また、協力医療・福祉機関と連携して、退居後の支援にも努めている。	契約時に、重度化した場合に事業所でする対応について本人と家族に説明している。重度化した場合には、家族の意向を聞いて、かかりつけ医と話し合い、他施設や医療機関への移設を含めて方針を決めて全員で共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故検討委員会を設置して、毎月検討会議を実施し、再発防止について話し合いをしている。	インシデント・アクシデント報告書に記録し、回覧した後、翌日の申し送り時に伝達し、話し合って検討する。月末の事故検討委員会で再度検討し、再発防止に取り組んでいる。事故対応については、具体的な訓練の実施はなく、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を行ない、避難通報を周知している。また、緊急連絡網を作成し地域の方にも連絡がいけるような体制をとっている。	併設の特別養護老人ホームと合同で夜間想定火災時の避難訓練を、利用者と一緒に年2回実施している。その内1回は、消防署の協力を得て、消火訓練、通報訓練も併せて行っている。火事・自然災害時の緊急連絡網を作成しており、地域の人(自治会長、民生委員会、民生委員副会長)が加入している。併設施設と事業所は、災害時の避難場所になっているなど、法人として地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員が、ご利用者を尊重するような言葉かけを心がけている。また、記録等の表現にも配慮している。	内部研修で学び、職員は理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。入浴時や排泄時の言葉かけに対しては、不適切な対応等がないかを管理者が確認し、随時指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言いたいことをロックするような雰囲気を作らず、想いを表出していただくような働きかけをしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、食事や入浴の時間等、ご本人の希望やペースによる生活支援を心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の着たい服装を尊重し支援している。ご自分で選ぶことができる方には、ご自分で好きな服を選んでいただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や、後片付け等、一緒に行えることは行えるように支援している。	昼食と夕食の副菜は法人からの配食を利用している。朝食と昼食の副菜1品、夕食の副菜1品、ご飯、汁物は事業所でつくっている。利用者の状態に合わせて、刻み食やとろみ食を用意している。利用者は、盛りつけや台拭き、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み同じものを食べている。月1回は準備から後片付けまでの作業を利用者と職員が一緒にできるように工夫して、お好み焼きパーティー、そうめん流し、たこ焼きパーティー、ちらし寿司、巻き寿司、餅つき、鍋パーティー、誕生会ケーキづくり、栗ぜんざい、チョコレートケーキ、柏餅づくりなどを行っている。年2回の外食や弁当持参の花見外食などの他、家族の協力を得ての個別外食をしているなど、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肥満の方や糖尿病の方などへの食事提供は、医師や栄養師へ相談し、個別対応している。嚥下が困難な方へは、適宜、トロミをつけたり、少量ずつ口に入れて頂くよう、声かけをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けから介助まで、ご本人の自立度と口腔状態に応じた支援をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	管理日誌内に、トイレに行かれた際の記録を残し、排泄支援に努めている。可能な限り、トイレに座っての排泄ができるように支援している。	利用者の約半数は排泄の自立をしており、介助の必要な利用者には、排泄記録表を活用し、時間を見計らって声をかけトイレに誘導するなど、自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の声掛けや、水分補給に留意するなどの支援をこころがけ、便秘予防に努めている。それでも便秘になるようならば、医師や薬剤師と相談して下剤の調整でもって、適切な排泄が出来る様に支援している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴時間帯は決めているが、ご本人の希望があれば、順番や実施日時を変更して対応をしている。	入浴は毎日、14時から16時30分までの間可能で、おおむね2日に1回は入浴できるように支援している。利用者の体調に合わせて、シャワー浴や清拭、足浴、部分浴での対応や、ゆず湯や入浴剤を使って入浴を楽しむ工夫をしている。入浴したくない利用者には、時間帯や入浴の順番の変更、職員の交代など、無理強いをせず個別の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても、ベッド臥床をしていただけるよう支援を行っている。また、日中の長期臥床とならないように日中の臥床時間には配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局による居宅療養管理指導を受け、定期的に指導をうけ、またその記録を電子カルテに残している。ご家族や本人へは、内服状況をその都度口頭にて説明をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやごみ捨て等、各利用者に分担して各々が出来ることをしていただけるような支援をしている。	貼り絵やぬり絵、折り紙、習字、ことば遊び、絵合わせゲーム、色当てゲーム、計算ドリル、将棋、テレビ・ラジオ体操、太極拳、ボール遊び、風船バレー、新聞購読、テレビ視聴、演歌を聞く、カラオケ、洗濯物干し、布団干し、自室のほうき掛け、金魚の餌やり、園芸療法（プランターで花を育てる、水やり、草引き、押し花づくり）、食事やおやつづくり、季節行事（節分、ひな祭り、クリスマス会、誕生日会）、地域行事、小・中・高校生との交流など、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面づくりをしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎回ではないものの、希望があれば個別でドライブや、周辺のお散歩等の対応をしている。	散歩や買い物（郵便局、商店）、ゴミ捨て、ドライブ（錦帯橋、道の駅など）弁当持参で桜の花見、紅葉狩り、初詣、山代夜市、花火大会、家族の協力を得ての買い物、法事や葬儀への出席、盆や正月などの外泊など、希望に合わせて個別や少人数での外出支援をしているなど、戸外出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金の管理は基本的に職員が行っているが、ご本人の希望に沿って、使用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を家人にかけたり、郵便物を送付したりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには金魚を飼育したり季節の飾り物を掲示したりしてリラックスして過ごせるように配慮している。光や色なども不快にならないよう工夫している。	陽のあたる明るい共用空間には、広々としたソファやテーブル、椅子、大型テレビが配置しており、昼の間や調理の匂いがしているキッチンスペースがある。壁には職員と利用者の手づくり作品や習字が飾ってある他、シクラメンの鉢植えやこたつがあり、季節を感じることができ、居心地のよく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングダイニングには複数のテーブルがあり、それぞれの思いにそった過ごし方が出来るような配置になっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や、家族の希望にそった環境づくりをしている。また、ご自宅から使い慣れた家具を持参して頂いて使用していただいている。	ソファや籐椅子、三段ボックス、仏壇、位牌、テレビ、ビデオデッキ、ラジカセ、本人好みのポスターチラシ、家族の写真、習字、押し花作品、般若心経、壁掛け時計、ぬいぐるみ、人形、仏壇、位牌、日記帳、新聞、化粧道具など利用者にとって居心地良く過ごせるように工夫がされている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前にはお部屋の方の名前を掲示して、自室の場所が分かるように支援している。また、居室内のトイレに目印をして、極力自力でトイレに行ける様に工夫をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム本郷

作成日：平成 28 年 6 月 8 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議において、会議構成員からの意見が議事録に残っておらず、サービスの向上に活かされていると言い難い状況である。	構成員からの意見を積極的に取り入れ、運営に活かす。	・運営推進会議時の、構成員への問い掛け方の工夫をする。 ・抽出した意見を議事録へ正確に記入する。 ・老人クラブ会長等、新たに会議に入って下さる方を検討する。	6ヶ月
2	14	H27年度において、グループ外部研修3名、グループ内部研修3名参加されたが、全員参加とまではいたっていない。できる限り年一度程度の外部研修への参加を促し、職員の資質の向上を図りたい。	常勤職員においては、年に一度は研修を受講し、資質向上を図る事とする。	・計画的な研修参加を図る。 ・代表者への積極的な研修の打診。【管理者】 ・現場業務が滞らないよう、従業員の確保を行う。	12ヶ月
3	35	事故発生時は事故検討委員会を実施して再発の防止に努めているが、応急手当や初期対応の訓練等についてはなかなか実施が出来ていない。	年に1回程度、定期的な応急手当訓練を実施する。	・毎月に内部定例勉強会に位置づけて各職員に周知する。その際の講師は隣接施設の看護師に依頼する。 ・外部機関の応急処置等の勉強会があれば、職員に参加して頂き、内部にて伝達講習を実施する。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。